

昨年のリベンジ焼岳山行

山行日 2019年7月29日～30日

コース 7月29日 帝国ホテル前 12:30—焼岳登山口 12:50—焼岳小屋 15:30 (泊)
7月30日 焼岳小屋 6:50—新中尾峠展望台 7:00/7:10—焼岳 8:20/8:30—
—中野湯分岐 8:40/8:50—中野湯 11:30

7月29日 (月)

今年の梅雨は長く何故か山行計画の日はことごとく雨にあい中止の憂き目の連続。夏合宿穂高山行にむけてのトレーニングも3回のうち2回中止、本番の穂高山行も中止と散々な目にあった。今回の山行も雨で1日延ばしての山行である。

帝国ホテル前でバスを降り田代橋を渡って西穂高登山入り口で登山届を出し焼岳上高地側登山入り口へと歩き出す。周りは笹が茂り見晴らしのない樹林のなかを30分程歩くと下方に帝国ホテルと大正池が見えてきた。大正池は1915年(大正4年)焼岳の噴火で梓川を堰き止めてできたとはよく知られている。



次第に傾斜もきつくなり橋や梯子の掛けてあるところが数箇所出てきた。樹林帯抜けると前方に岸壁がみえてきた。そこにこのコースで一番長い梯子がかかっている。高さ8m、斜度80度アルミ製だ。しかし登っている途中でよく見ると剣岳等の梯子が太い鎖等で支えられているのと同じ細い針金で支えられているだけだ。なんとも心細い梯子だ。注意して一段一段上る、梯子を上り終えると穏やかな笹原の斜面をジグザク上り詰めると焼岳小屋の屋根が見えてきた。

7月30日 (火)

山小屋の朝食は早い。最初のグループの朝食が5時からのため食堂で寝た我々は4時に起こされた。山小屋は混んでいたが一人ひとつの布団で寝られたのでぐっすり眠れた。空は相変わらず曇り空だが雨は大丈夫みたいだ。

昨年の雨の中焼岳を恨めしく眺めながら大正池から河童橋まで歩いたのに比べたらよしとしなければ思い出しながら小屋を後にする。クマザサの中を上ると焼岳展望台に出る。ここからは右手正面に笠ヶ岳、後方には穂高連峰等を望むことができるはずが雲に遮られて視界“0”。残念 中尾峠を過ぎると道はいよいよ火山らしく煙を噴き出す場所も出でくる。火山岩に記された丸印をたどりガレ場を登り詰めると焼岳北峰に到着する。

10年前の旧3班夏合宿以来2度目である。三角点は南峰にあるとのこと。62年の火山活動以来入山は規制されているので今回も三角点にはタッチできずじまい。北アルプス唯一の活火山焼岳最高峰の南峰は雲の中にすっぽり隠れ盛んに上がる噴煙すら見るができなかった。

帰りは新中の湯ルートをはたすら歩いて下りる。

